まず、行政の立場より大分県全体で目指す「医療連携体制」について大分県医療政策課から、続いて大分県脳卒中パス連携協議会から、大分県内の「脳卒中連携」について、豊肥地区脳卒中連携協議会からは、地域における維持期（在宅支援）連携について、別府市医師会からは、医師会を中心に準備し稼働を開始した、基幹病院と地域の医療機関を結ぶ電子カルテネットワーク（ゆけむり医療ネット）構築に向けた取り組みについて、最後に特別発言として電子カルテネットワークのシステムについて富士通からと、地域の特性やその専門領域における「地域医療ネットワーク」についてご発言頂きました。

総数120名余りのご参加を頂き、盛況の内に無事終了することができました。

この場をお借りしまして、ご協力頂きました皆様方へ感謝申し上げますと共に、今後の本学会の益々のご発展を祈念し報告とさせて頂きます。

第11回東京支部学術集会

学術集会会長：武蔵野赤十字病院病院長　富田博樹

会場風景

第11回東京支部学術集会は2011年2月26日（土）、日本赤十字看護大学武蔵野キャンパスにおいて140名の参加をえて行われました。今回の学術集会は、「東京における医療連携の現状と問題点－地域連携クリティカルパスを中心として－」をテーマとしました。シンポジウム「東京都の脳卒中連携の現状と問題点」では、都内外において急性期病院、回復期リハビリ病院で脳卒中診療を担っておられる8名の演者による報告が行われました。パネルディスカッション「東京都のがん診療連携の現状と問題点」では、拠点病院、一般中核病院、医師会、連携実務者、厚生労働省の7名のご発表と、フロアを交えて活発な議論が行われました。ランチョンセミナーでは、「大阪府の統一型がん地域連携クリティカルパスの現状と問題点」を大阪府立成人病センターの東山聖彦先生に御講演いただき、大阪の取り組みをご紹介いただきました。一般演題（ポスター）では、地域連携のみならず、医療安全、職員教育、感染管理、電子クリティカルパスなど、多岐にわたる内容に対し活発な討論が行われました。ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

第4回大阪支部学術集会

学術集会会長：大阪医科大学附属病院前病院長　花房俊昭

2011年2月26日（土）、大阪医科大学（大阪府高槻市）において、第4回大阪支部学術集会が開催されました。テーマとして『躍動するチームマネジメント：One for All, All for One』を掲げ、多職種によるチーム医療のあり方を中心に発表や意見交換を行いました。特別講演2題（和歌山県立医科大学畑埜義雄先生による「組織コーチングとコミュニケーション」、枚方市民病院長 森田眞照先生による「赤字体質からの脱却」）、シンポジウム2題（「医療安全」「組織作り」）、一般演題54題、ランチョンセミナー3題の発表が行われ、475名のご参加をいただきました。「組織作り」のシンポジウムでは、携帯電話を使って会場の参加者と発表者との間で双方向性の意見交換を行うなどの試みも行いました。どの会場でも多くの参加者による熱心なご討論をいただくことができました。発表者、参加者、ご協力をいただいた方々皆様に心より御礼申し上げ、開催報告とさせていただきます。

会場風景

第11回長崎支部学術集会

世話人：医療法人財団白十字会佐世保中央病院病院長　植木幸孝

会場風景

2011年2月26日（土）、アルカスSASEBOにおいて第11回長崎支部学術集会が開催され、211名の方が参加されました。「患者中心の地域連携（急性期から在宅まで）を目指して」をメインテーマに、特別講演（2題）、シンポジウムのほか、一般演題（口演16題、ポスター5題）、クリティカルパス展示（6題）を行いました。

特別講演は、国立がん研究センターの石川光一先生に「DPCデータから紐解く長崎県の医療のキープレイヤー」と題してご講演いただきました。また、やまおか在宅クリニック院長・山岡憲夫先生には「大分市全体をホスピスに！－チーム地域医療連携による－」と題してご講演いただきました。石川先生はDPCデータをもとに、山岡先生は診療の現場での経験をもとに、それぞれ切り口は異なりますが、地域が一つとなって患者さんを支える“地域連携”の重要性についてお話されました。

シンポジウムでは、急性期・回復期・在宅（訪問看護ステーション、在宅ケアサークル、開業医）の立場から現状と課題の報告を行った後、会場も含めた熱心なディスカッションが展開されました。

本学術集会を盛会のうちに終了できましたのも、ひとえに関係者の皆様方のお力添えの賜物と心よりお礼申し上げ、開催報告とさせていただきます。